目標9 2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現

データの分散管理によるこころの自由と価値の共創



Project manager

橋田 浩一

理化学研究所 革新知能統合研究センター グループディレクター



○ 代表機関

理化学研究所

研究開発機関

大阪大学 京都大学 慶應義塾大学 東京大学 明治大学

プロジェクト概要

中央集権 AI (CAI)と注意経済がこころの自由と民主主義を脅かしパー ソナルデータ(PD)による価値創造を阻害しています。

個人のPDを本人のパーソナルAI (PAI)だけがフル活用する分散管理の 方が高い付加価値を生むことを示し、それを PAI の民主的な ガバナン スとともに普及させて CAI を PAI で置き換え、また同じく分散管理に 基づいて情報の真正性と多様な情報へのアクセスを確実にすること で、 こころの自由を擁護し価値共創を促進し民主主義と経済パフォー マンスを同時に強化します。

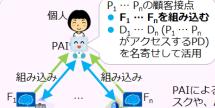
2032年のマイルストーン

人間研究のための分散データ基盤を構築し、そのオープン市民科学への 発展を図ることにより、PAIの機能向上と分散ガバナンスを実現する。

2027年のマイルストーン

分散管理の潜在的価値を実証し、PAI による分散マッチングを社会実装 する。

プロジェクト内の研究開発テーマ構成



左図のようにPAIとつながる サービスの多様性に応じてPAI **の価値が非線型に増大**すること (左図)をまず公共的なサービス に関して実証し、PAIを普及さ せる基盤を構築する。

PAIによる支援がこころの自由を損なうリ スクや、AIと融合した社会におけるオープ ン市民科学の役割を探究し、分散管理の倫 サービス提供者P, サービス提供者P。理的妥当性や社会受容性を明らかにする。

科学技術課題1 PDの分散管理

セキュリティ・プライバシ・スケーラビリティ

科学技術課題3 PAIと分散 ガバナンス

人間研究のための分散データ基盤

科学技術課題2 人間研究のための 分散データ基盤の構築

202.7~ こころへの不正 な介入を減殺

情報の真正性と多様性

社会課題 こころの自由 と価値の共創 2032~

- ◆ 人間研究のための分散デー タ基盤をオープン市民科学 に拡大することにより、PAI を高度化する研究開発を可 能にするとともにPAIの分権 的ガバナンスを確立する。
- それによってPAIでCAIを淘 汰し、こころへの不正な介 入を減殺する。

行動データ、医療データ、文書データ等の PDの分散管理と研究利用

- 集中管理されたPDを分散管理に移行す るとともに、新たに生成されるPDを分 散管理する持続可能な什組みを作る。
- ◆ 分散管理された多くの人々のPDを公正 かつ効率的に収集する仕組を整備するこ とにより、高度な人間研究のための基盤 を構築する。
- ◆ その人間研究の成果により、知的活動を 支援して情報の真正性と多様性を高める。

